

令和2年度 第1回

白石町まち・ひと・しごと創生推進会議要録

日時：令和2年7月27日（月）15：00～16：40

場所：白石町役場 3階大会議室

1. 開会【進行：総合戦略課長】

2. 委嘱状交付

3. 町長あいさつ

みなさんこんにちは。本日は大変お忙しいなか、「白石町まち・ひと・しごと創生推進会議」にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、この推進会議の委員をお引き受けいただいたことにつきましても、重ねてお礼を申し上げます。

今朝の新聞にも載っておりましたが、今年の梅雨は例年より長く、明けるのも遅いようでございます。最近のあいさつ言葉の中でも、雨ばかりでいつになったら梅雨が明けるのだろうということが言われているようでございます。本日も朝から雨でお足元の悪い中にご出席いただきましてありがとうございます。

さて、「まち・ひと・しごと創生」につきましては、平成26年に、日本創生会議が、全国896の市区町村を消滅可能性都市として公表し、日本中に衝撃をもたらしたことに端を発しているところでございます。

本町におきましても、人口減少や少子高齢化が進んでいくことで、農業などの後継者不足、高齢者の一人世帯の増加、若者の町外流出、空き家の増加などの問題が大きくなっております。

このような状況を踏まえて、平成27年に第1期の「白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、しろいし農業塾や観光関連施策、6次産品の販路開拓及び、道の駅整備事業などに取り組み、地域経済の活性化や、まちの活力の向上を目指してきたところです。

しかしながら、今年度におきましては、ご存知のとおり新型コロナウイルス感染症のため、町内の様々な所に影響が出ております。まだまだ予断を許さない状況であり、今後とも感染予防の徹底を続けていくことが必要です。

さらに、先日は九州地方に大雨特別警報が出されました。本町においても避難指示を発令し、避難所には100名以上の方が避難をされました。数十年に一回と言われる大雨が各地で毎年のように発生しており、土砂崩れや河川の氾濫などへの対策が強く求められています。

このような状況に対応していくためにも、新たな生活様式を模索しながら、本町の強みであり、肥沃で豊かな白石平野の、恵まれた農業好適地帯を活かして、地域の人々が助け合い、活力を生み、誰もが活躍できる地域社会の実現を目指していきたいと考えております。

加えて、今年、第2期の総合戦略を策定する年となります。「働ける環境づくり」、「白石への移住・定住の推進」、「結婚・出産・子育ての夢をかなえる町」、「ひとが集う、安心して暮らせる町」に向け、今後も継続していく取組や、これからの時代に合った、本町の良さを活かせる取組などを、委員の皆さんの意見を伺いながら検討していくこととなりますので、どうか、忌憚のないご意見をいただきますようお願いし申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

4. 委員の紹介

○白石創生推進係長

資料1により委員の所属と名前を読み上げて紹介

5. 町担当職員の紹介

○総合戦略課長

資料1により職員を事務局が紹介（一人ひとりの紹介を省略）

6. 白石町まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱について

○総合戦略課長補佐

それでは私の方から説明をさせていただきたいと思っております。資料2をご覧ください。

白石町まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱です。本日開催の令和2年度第1回白石町まち・ひと・しごと創生会議は、この白石町まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱に基づき開催しております。第1条に規定しておりますとおり、総合戦略の策定及び推進にあたり、広く関係者の意見を反映させるために設置をしております。これからの協議事項においていろいろなご意見をいただきますようお願い致します。第2条はこの推進会議において審議する事項を定めております。本日は主に第1期総合戦略の効果検証に関するをお願いすることになります。どうぞよろしく申し上げます。第3条で推進会議は委員20人以内をもって組織することとしております。先ほどの資料1のとおり12人の方に委員を委嘱しております。裏面をご覧ください。第4条で委員の任期を定めております。3年となっておりますので、本日から令和5年3月31日までを任期として、皆様に委嘱をさせていただいております。また第2項では委員が欠けた場合における補欠の委員の任期を前任者の残任期間としておりますので、人事異動などにより委員に変更があった場合の後任の方につきましては前任者の残任期間をお願いすることになります。第5条はこの会議の会長は白石町副町長をもって充てるとしており、第6条で招集は会長が招集し、その

議長となるとしております。第 7 条は会議の庶務について総合戦略課で行うことを定めております。要綱と役割についての説明は以上となります。

⇒質疑無し。

7. 協議事項【進行：会長】

(1) 第 1 期（平成 27 年度～令和元年度）総合戦略の改訂について

○総合戦略課長補佐

第 1 期総合戦略の改訂について説明致します。総合戦略をご覧ください。白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、平成 27 年 11 月に策定して、今年の 3 月には第 2 期計画を策定するため、計画期間を本年度までと延長する改訂を行っておりまして、今回の 7 月改訂が 2 回目となります。改訂内容の説明に入ります前に、初めて委員となられた方もいらっしゃいますので、まずは、総合戦略について趣旨などを簡単に説明させていただきます。

1 ページをご覧ください。白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、趣旨の真ん中あたり、このため以降のところになりますが、まち・ひと・しごと創生法第 10 条の規定に基づき、白石町人口ビジョンにおける人口の将来展望等を踏まえ、白石町が今後行うべき具体的な施策を策定し、その実行により人口減少問題に取り組んでいくものです。計画期間は、その下、先ほども申しましたとおり、3 月に改訂を行っておりまして、平成 27 年度から令和 2 年度までの 6 年間としております。また、総合戦略の検証や改善などにつきましては、基本目標や具体的な施策に係る重要業績評価指標 K P I の達成度による、役場内やこの会議による検証、及び議会による審議を受け改善を重ねる仕組み、PDCA、P：プラン計画、D：ドゥ実行、C：チェック評価、A：アクション改善、このサイクルで行っていきます。本日は、このうち C のチェック評価を委員の皆様をお願いするようにしております。よろしく願い致します。その他、緊急的に効果的な施策の追加が必要な場合は、年度途中であっても改訂し、推進会議や議会に、事後とはなりますが、報告することとしております。

3 ページをご覧ください。総合戦略では、4 つの基本目標の実現を目指し、その具体的な施策に取り組むことで、白石町人口ビジョンの将来展望の達成に努めます。どういうことかと申しますと、具体的な施策の内容につきましては、この後の協議事項 2 の総合戦略の検証の部分で説明させていただきますが、ページの左側、II 人口の将来展望の下の部分、合計特殊出生率、これは 1 人の女性が出産可能とされる 15 歳から 49 歳までに産む子供の平均数を表す統計数値ですが、そこには書いておりませんが、平成 25 年時点で 1.58、人口は平成 22 年国調で 25,605 人となっております。それを、具体的な施策の中の「子育てしやすい環境への支援策」などで、まず、合計特殊出生率を、2040 年、そこでは平成 52 年と書いてありますが、令和 22 年までに 1.8、2060 年、そこには平成 72 年と書いてありますが、令和 42 年までに 2.0 に上げ、これに「若年層等転入のための施策」などで人口の減少を緩やかにして、目標とする人口を 2040 年に 18,475 人、2060 年 15,025 人に設定して、その達成を目指しますということです。この人口ビジョンにつきましても、この後説

明いたしますが、第 2 期総合戦略策定のため、今年 3 月に改訂しております。そのため、そこに記しております目標人口に関しましては、その改訂後の数値とする予定であることを申し添えます。趣旨などの説明については以上です。

⇒質疑無し。

続きまして、今回 7 月に改訂する分の案の説明をいたします。11 ページをご覧ください。一番上の部分になります。本町におきましては、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業、及び、個人設置型浄化槽により生活排水処理施設の整備を行い、生活環境の改善や公共用水域の水質の改善に努めているところです。この財源につきましては、主に国の「地方創生汚水処理施設整備推進交付金」を活用しているところですが、その要件として、市町村が策定する地方版総合戦略にもその旨記載するようになっております。このため白石町におきましては、第 2 期総合戦略から明記するよう国と協議し、了承もいただいておりますが、あらためて、国の方から第 1 期総合戦略にも明記するよう指示があったため、今回この項目を追加しております。総合戦略改訂については以上です。

⇒質疑無し。

⇒採決。原案どおり可決。

(2) 第 1 期（平成 27 年度～令和元年度）総合戦略の検証について

○総合戦略課長補佐

資料 3、資料 5、資料 3 の記入例をお願い致します。まずは資料 3 の記入例をご覧ください。総合戦略の検証に入ります前に、その方法とちょっと記入いただく部分もありますので、その書き方などを説明いたします。総合戦略の効果検証シートにつきましては、基本目標 1 から 4 ごとに数値目標を設定しております。それに対しまして、今回実績値をお示ししておりますが、これはその下の K P I の再掲でございます。そしてその K P I につきましては、原則として、その下にあります具体的な施策を実施したことにより把握した数値を計上しております。具体的に申しますと、K P I の一番上の部分、女性従業員数 5 年間で 15 人、実績値 0 人としておりますが、実際町内の様々な事業所でこの 5 年間の新規の女性従業員の方はたくさん採用されていると思いますが、ここに掲げている事業、実際、町ではできておりませんでした。これによって増えたわけではないので「0」としております。そしてその下の方、公共機関や企業の誘致につきましては、ここに掲げる事業、それ以外のいずれにつきましても実績はありませんので「0」としているところです。

そして、委員の皆さんに今回お願いするチェック評価とは、この K P I の部分、目標とする指標と実績値を参考に、その下に掲げている具体的な施策について、有効であったか、赤い丸のところでチェックをしてもらうことで、評価を何うという形にしております。この記入例に使っている資料 3 の 1 ページの部分についてはご覧のとおり実績値が全て「0」となっておりますので、基本的には有効であったとは言えないにチェックが入るかと思いますが、これは記入例ということで、1 か所だけ「その他」にしてコメントを

書いております。このコメントにつきましてはどのようなことでも構いません。委員のみなさんの率直な意見を書いていただき、次の総合戦略につなげていきたいと考えております。進め方につきましては、基本目標のメニュー毎に説明をして、質問等を受けながらチェックをしていただき、主な意見がある場合は、本日は書ききれないこともあるかと思っておりますので、その場合は本日返送用の封筒をお渡ししているかと思っておりますが、それで提出をお願いしたいと思っております。本日ご提出いただく人、郵送による人、いずれもコピーをいただいて原本はお返ししようと考えております。みなさんに書いていただく部分は、まず氏名のところの赤い丸、そこにお名前を書いていただき、これからチェックシートの具体的な施策を説明していきますので、その説明の後にその下の赤丸のところ、事業の評価のところチェックを入れていただき、コメント等がありましたら書いていただくということによりよろしくお願いいたします。記入方法の説明は以上です。

⇒質疑無し。

それでは効果検証シートの説明に入りたいと思います。資料 3 とその事業の様様を写真で掲載している資料 5 をお願い致します。資料 5 につきましてはスクリーンにも提示しますのでよろしくお願いいたします。時間の都合もありまして、説明は簡単にさせていただくことをご了承ください。まず、お名前だけで結構なので書いていただければよろしいでしょうか。それでは長くなりますがよろしくお願いいたします。

まずは、基本目標①「本気！やる気！元気！しろいし！～若者が安心して働ける場をつくる～」の数値目標ですが、新規就農者数が数値目標として 5 年間で 170 人、これに対しまして実績が 109 人、新規雇用者数が 5 年間で 75 人、これに対しまして実績が 13 人。これにつきましてはいずれも、次ページのメニュー 2 の K P I を再掲としております。その下のメニュー 1 の「企業や教育機関、公共的機関の移転の誘致による雇用の確保」の K P I は、女性従業員数 5 年間で 15 人、公共的機関 5 年間で 1 機関、企業の誘致数 5 年間 2 事業所としておりまして、これに対しまして実績値はいずれも 0 となっております。これに対しまして、具体的な施策としましては、まず、「女性に優しい空間づくり」、2 番目に「公共的機関の誘致」、3 番目、これは資料 5 の 1 ページに写真がございますが、「教育・研究開発機関の誘致と連携」、「白石町に合う企業の誘致」を掲げていましたけれども、いずれにおきましても、担当部署における内部評価につきましては、1 番と 2 番が進捗していないとなっております。3 番につきましては写真にもありますとおり、平成 30 年度にイチゴのトレーニングファームを開設して事業を実施しております。そういったことから進捗している。そして 4 番目についてはあまり進捗していないという検証をしております。今後の方針につきましては、1 番は事業内容の見直し、下の 3 つにつきましては今後も事業を継続していくという方針にしております。説明については以上ですが、これに対しまして、1 番から 4 番まで事業の評価のところ K P I の達成に有効であったか、有効であったとは言えない、その他のいずれかにおいてチェックを入れていただければと思います。

○委員

おおもとの事業が有効かどうかという話しですか？例えば、「女性にやさしい空間づくり」が有効だったかということか、具体的な内容の方が有効だったかということか。

○総合戦略課長補佐

一番左側の具体的な施策名「女性にやさしい空間づくり」これ自体が有効であったかということですか。

○委員

今後とも必要かどうかという判断でよいか。

○総合戦略課長

はい。

チェックにつきましても後だっつけていただいても結構ですので、何かご質問等ありましたらお願いしたいと思います。

【委員チェック】

2 ページ目をお願い致します。メニューの 2 番「新規就農者及び農業後継者の育成・確保」です。K P I につきましては、新規農業従事者数 5 年間で 150 人、実績が 109 人。しろいし農業塾卒業者の農業従事者数 5 年間で 20 人に対しまして、実績が 7 人。農業従事者数、これは被雇用者になりますが 5 年間で 25 人に対しまして、実績が 13 人となっております。具体的な施策といたしましては、これは資料 5 の 3 ページに写真がございます。「新規農業就業者対策支援」ということで青年就農給付金、青年等就農資金、機械・施設の整備に係る助成等を実施しているところです。効果検証につきましては進捗しているということですので今後の方針も事業の継続をしていくというふうにしてしております。続きまして、2 番目、「しろいし農業塾」です。写真は 4 ページになります。これは、町内に就農及び移住してもらうため、首都圏等の大都市や町外から就農希望者を募集し、農業団体等で受入れ、農業研修生として農業全般に従事してもらうという事業です。第 1 期につきましては平成 27 年から 28 年 4 名、第 2 期は平成 29 年から 30 年 3 名、第 3 期は令和元年から 2 年ということですので 3 名の方が研修をされまして、1 期と 2 期は卒業をされまして、3 期が現在研修中ということになっております。そういったことから、検証につきましては進捗しているということですのでしておりますが、今後の方針としては、事業内容は見直すということではしております。3 番目です。「農業従事者、被雇用者の確保対策」といたしましては、農業法人等への研修生受け入れに対し、研修費の助成を行う農の雇用事業の推進をしているところです。一定の進捗があるといたしまして事業を継続していくとしているところです。説明については以上です。

評価の方は率直につけていただいても結構ですのでよろしく申し上げます。

【委員チェック】

3 ページ、メニューの 3 番「新しいことへ挑戦する人への積極支援」ということで、K P I は起業・創業者数 5 年間で 5 人、それに対しまして実績値は 0 人、6 次産品開発件数 5 年間で 46 件、それに対しまして実績が 76 件、新規農産物数 5 年間で 3 品に対しまして実

績が 17 品となっております。具体的な施策ですが、1 番目「白石町創業者支援制度」、これにつきましては、創業支援事業計画を策定いたしまして、産業競争力強化法に基づきます認定を受けるということですが、相談実績があっておりませんため進捗はしていないということですが、今後の方針は、事業の継続をしていくというふうにしております。2 番目ですが、これは資料 5 の 5 ページに写真があります。「儲かる農産物の開発」といたしまして、JA、県関係機関、民間組織と協議して、平成 30 年度までに 3 品目の開発を目指すということで、これは道の駅対策として実施をしているところです。目標を達成したために、進捗をしているとしていますが、ただ普及までは至っていないために、今後も事業を継続ということですが、その下、3 番目です。「6 次産業化の推進」です。これは資料 5 の 6 ページに写真があります。平成 30 年度までに 40 品目の開発を目指すということで、これも道の駅対策として実施をしているところです。これも目標達成済みということで進捗をしているということにしてますが、方針といたしましては、その他といたしまして、これにつきましては令和 2 年度までの事業をもって補助事業は終了するというふうの方針を出しているところです。その下、4 番目です。「商工業者などへの支援」ということで、資料 5 の 7 ページに写真があります。商工団体が国県の支援を受けて行う賑わいづくりに取り組む事業として、キャッシュレス決済の普及事業に取り組みまして、一定の進捗があるというふうにしております。今後も事業の継続をしていくという方針にしております。以上です。

【委員チェック】

4 ページは基本目標①の一番最後のメニュー4 となります。「ふるさとで活躍する人材の育成」といたしまして、KPI は Uターン者数 5 年間で 25 人という指標に対しまして、実績は 0 となっております。これも実際はいらっしゃる可能性はあるのですが、ここに掲げる事業による Uターン者数は確認できないために 0 としているところです。具体的な施策といたしまして、資料 5 の 8 ページに写真がありますが、「ふるさと学」の推進ということで、小学校の副読本、職場体験学習を実施しております。そういったことで、効果検証としましては、進捗をしているということで、今後の方針としても、事業の継続をしていくというふうにしていくところです。そしてその下 2 番目「地元定着の促進」ですが、これは資料 5 の 9 ページ、10 ページに写真があります。さが地方創生人材育成・活用プロジェクトへの参加、佐賀女子短期大学との連携事業、そして、白石高校及び佐賀農業高校との連携、佐賀農業高校につきましては、道の駅しろいしでのサノボヌール、サノンマルシェの実施、白石高校につきましては地域連携事業の実施と、高校の分につきましては、昨年度から本格的に取り組んでいるところです。こういったことから一定の進捗があるということで、今後も事業の継続をしたいとしているところです。説明については以上です。

【委員チェック】

資料 5 ページから、基本目標②「来てよか、見てよか、食べてよか、住んでよか、しろ

いし！～白石への新しいひとのながれをつくる～」ということで、数値目標は観光入込客数、これは道の駅来店者を含みます。目標といたしまして、平成31年は315,200人、実績値につきましては令和元年351,465人となっております。移住者につきましては5年間で30人に対しまして、実績は5人というふうになっております。メニューの1番、「白石町の魅力発信」ということで、KPIといたしまして、道の駅の来店者数、年間30万人として指標を設定しておりました。実績値は178,000人となっておりますが、これは右上の方に書いていますとおり、9か月間、令和元年6月から令和2年2月までの実績です。また、目標の30万人は有明海沿岸道路の開通後の目標値として設定した数値が30万ということでご理解をお願い致します。そしてその下、町ホームページのアクセス件数、これにつきましては、平成31年237,200件の目標に対しまして、実績値は令和元年で228,592件となっております。具体的な施策といたしまして、1番「道の駅整備事業」、資料5の11ページになります。平成29年度30年度の2カ年で施設の造成、建設を行いまして、令和元年6月に道の駅しろいしが開業しているところです。ということで、効果検証につきましては進捗しているということで、今後の方針は更に発展させるというふうにしております。その下2番「がばいよかこ発信事業」ですが、資料5の12ページに写真がございます。「道の駅しろいし」のオープンPRを行うことで町の特産物のPRを行うということで、水曜市の開催、これは福岡で毎月1回販売促進活動を行っております。そして平成30年度には3月にJR長崎駅でPR活動を行っているところです。こういったことから、進捗しているというふうに効果検証はしております。そして今後も事業の継続は行っていくという方針を出しております。説明については以上です。

【委員チェック】

○会長

町のホームページアクセス件数の平成26年の実績値がKPIと違っているのはなぜでしたか。

○総合戦略課長補佐

すみません、確認させていただいてよろしいでしょうか。

6ページはメニューの2「定住促進、移住支援」です。KPIは空き家バンク登録件数、5年間で20件、それに対しまして実績値は28件。移住者数は5年間で30人、実績は5人となっております。具体的な施策といたしまして、「農村型振興分譲宅地の創設」につきましては、進捗をしております。今後の方針といたしましても事業内容の見直しをしていくこととしているところです。その下2番目、これは資料5、13ページに写真がございますが、「空き家・空き地バンク、お試し移住」、これにつきましては平成30年3月から空き家バンク制度を実施しております。登録件数が28件、成約件数が11件。このうち5件が町外の方の成約件数となっております。そういったことで、一定の進捗がございまして、令和2年度から空き家バンクに空き地も対象として追加をしております。そういったことで今後の方針としてもさらに発展をさせるというふうにしていただいております。その下3番

目ですが「県外への通勤者への駐車場代の助成」ということでしておりましたが、これは進捗はしていないということで、これにつきましては、肥前白石駅の利用促進につながる対策を検討するとして、今後事業内容を見直していくというふうに行っているところです。説明については以上です。

【委員チェック】

7 ページはメニューの 3 番「地域観光資源の再発見」といたしまして、K P I は観光入込客数、平成 31 年 315,200 人、これに対しまして実績値、令和元年 351,465 人。観光ルート数 5 年間で 3 本に対しまして、実績も 3 本というふうになっております。具体的な施策につきましては関連するので 1 番から 4 番まで一緒に説明をさせていただきたいと思います。資料 5 の写真につきましては、14 ページから 17 ページに写真があります。まず 1 番目ですが「広域的なグリーンツーリズム」、2 番目に「杵島山系歴史散策コースの設定」、3 番目に「交通手段の拡充」、4 番目に「地域資源活用観光振興事業での計画事業の実施」、この 4 つを設定して、実施事業といたしましては、観光パンフの作成、観光案内板の設置、年間体験（観光・農業）の企画、モニターツアーの実施、観光地でのイベント開催などを行っているところです。全ての施策で一定の進捗があるとして、今後も事業を継続するとしていきます。説明については以上です。

【委員チェック】

8 ページからは基本目標③「出会いに感謝！目指せ子宝のまち、しろいし！～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～」ということになっております。数値目標は、合計特殊出生率、目標が平成 31 年で 1.65、実績値といたしまして 1.48、これが平成 30 年の数値になっておりますが、平成 31 年分につきましては、母の年齢階級別出生数、これは厚労省のデータになりますが、これがまだ公表されておられません。そういったことで現時点では算出ができないため平成 30 年の数値をそこに掲げております。そしてその下「婚活サポート事業による成婚数」、5 年間で 20 組、これに対しまして実績値が 7 組。2 人とも婚活サポート事業の相談者数というのは 2 組でございまして、その他の 5 組は相談者とその他の方たちというふうになっております。

メニュー1 の「結婚推進対策の充実」の K P I は数値目標と一緒にです。具体的な施策といたしまして、「婚活サポート事業」の拡充ということで、資料 5 につきましては 18 ページに写真が載っております。実施事業といたしましては、婚活サポーターの意見を聞きながら出会いの場・交流の場を創出しているということで、一定の進捗がございまして、今後の方針も事業の継続というふうを考えているところです。

そしてその下、メニュー2 の「出産支援」の具体的な施策は、資料 5 の 19 ページと 20 ページに写真がございまして、「不妊治療制度の拡充」と「多子世帯への助成」に取り組んでおまして、いずれにつきましても一定の進捗があるとして、今後も事業継続の方針としているところです。以上です。

【委員チェック】

9 ページのメニュー3「子育て支援」のKPIにつきましては、町内での病児・病後児保育施設数となっております、KPIは5年間で1施設に対しまして、実績は0となっております。具体的な施策といたしまして、「病児・病後児保育の実施」としてしておりますが、実施事業につきましては、現在方向性の検討をしているところをごさいます、効果検証についても進捗をしていない、今後の方針といたしましては事業内容を見直していくというふうをしているところです。2番目につきましては「一時預かり事業等の充実」ということで、令和2年3月現在で一時預かりは4施設で実施をしているところをごさいます、一定の進捗があるということで、今後は更に発展をさせるという方針をしております。3番目「子育て支援の情報発信強化」ということで、これは資料5の23ページに写真がございますが、母子手帳アプリの導入を行いまして、一定の進捗があるとしております。今後の方針も事業の継続をしていくというふうをしているところです。4番目につきましては「子育てに関するワンストップ相談体制の整備」ということで、令和2年1月に子育て世代包括支援センターの設置ができておりますので、進捗しているということで、今後も事業を継続していくというふうしております。5番目「公園施設の充実」ですが、多目的運動広場のトイレ、これにつきましては整備済みということで、わんぱく広場、これは福富にありますマイランド公園内のこととなりますが、これにつきましては隣接する駐車場内のトイレを改修済みとして、一定の進捗があるとしているところです。ただ今後の方針として事業内容の見直しをしていくというふうをしているところです。6番目につきましては「切れ目のない子育て支援の実施」として、実施事業といたしましては、給食費の無償化、これは小学6年生と中学3年生を対象にしています。小学生・中学生医療費助成を現物給付としておりまして、フッ化物洗口の保護者負担無料などを実施しているところです。そういったことから、効果検証は進捗しているということで、今後の方針も事業の継続としているところです。説明については以上です。

【委員チェック】

10 ページはメニュー4「教育環境の整備」ということで、KPIは「コミュニティ・スクール導入学校数」、5年間で11校、実績値も同じ11校となっております。資料5の写真は27ページでございます。目標を達成しているということで効果検証も進捗している、あと今後の方針も事業の継続としているところです。以上です。

【委員チェック】

11 ページから、基本目標④「くらしに豊かさを、地域に絆を、人の温もりを感じるまち、しろいし！～まちに活力をもたらし、地域をみんなで盛り上げる～」。数値目標といたしましては、地域づくり協議会の設置ということで、5年間で8ヶ所、これは小学校区数になります。実績値は0というふうになっております。

メニューの1番「町民協働によるまちづくり」で、地域づくり協議会の設立数は、先ほども申しましたように実績は0ということで、NPO法人の設立数、5年間で3件に対しまして、1件となっているところです。具体的な施策といたしまして、資料5の写真は28ペ

ージにございますが、地域づくり協議会の設立支援ということで、実施した事業といたしましては、協働による地域づくり検討委員会の設置ということで、目指す将来像として、「町民協働によるまちづくり」の方向性を町へ示していただいたこと、モデル地区による取り組みを今現在須古地区でおこなっていること、これらのことから一定の進捗があるとしております。今後の方針は、最終的には、現在の 8 小学校区全てにおいて、地域づくり協議会の設立を目指すということで、更に発展させるというふうに行っているところです。その下 2 番につきましては「NPO 法人・CSO 活動の支援」ということで、令和 2 年 3 月 15 日現在、NPO 法人設立数 2 団体としておりましたが、1 件は見込みということで 2 団体としておりました。ただ結果、3 月 31 日時点で設立ができていないため、KPI の実績のところでおりましたとおりの 1 件というふうになっております。効果検証につきましては、一定の進捗があるというところで、今後の方針も事業の継続をしていくというところですので、以上です。

【委員チェック】

メニュー 2 の「安全・安心で快適な住みよいまちづくり」の KPI として自主防災組織の組織率、5 年後に 50%。これは全世帯数に対する加入世帯数の割合です。それが 50%。そして実績値が 32% となっております。具体的な施策といたしまして、自主防災組織の組織化推進ということで、六角川沿い地区、山沿い地区への組織結成の推進をしているところです。効果検証といたしまして、一定の進捗があるとして、今後の方針として更に発展をさせるというふうに行っているところです。以上です。

【委員チェック】

メニュー 3 「誰もが活躍できるまちづくり」ということで、KPI はシルバー人材センターの年間登録者数です。5 年後に 120 人というふうになっておりました、実績は 112 人となっております。具体的な施策として、1 番目「生涯現役としての活躍促進」ということで、資料 5 につきましては 31 ページになります。実施した事業といたしましては、生涯学習講座を開催して、一定の進捗があるとしておりました、今後も事業の継続を方針としてされているところです。そしてその下 2 番目「女性活躍の推進」ということで、令和元年 8 月現在で審議会等への女性の参画状況、これが 32.9% となっております、本町の目標が 30%、これを達成しております。そういったことで一定の進捗があるとしておりました、今後は更に発展させるということで方針をしているところです。最後になります、3 番目ですが「地域団体によるつながり強化」ということで、3 団体の青年部、農協・漁協・商工会の青年部と連携して、イベント、これは婚活イベントになりましたが、これをして町の PR をおこなないました。こういったことから一定の進捗があるとしておりました、今後の方針は更に発展させるというふうに行っているところです。説明については以上です。

【委員チェック】

一番下に自由に記載していただく欄を設けております。白石町の第 2 期総合戦略を策定するにあたり、新しく取り組むべき、またはもっと力を入れるべき施策等、何かアイデア

等を持っておられたら教えていただければと思っておりますのでよろしくお願い致します。

○会長

私の方から質問をさせていただきました、5ページの真ん中の表のところの、町のホームページアクセス件数の平成26年のKPIと実績値が違っていることについて質問をさせていただきましたがそれについての回答をお願いします。

○総務課長

町のホームページアクセス件数のKPIの数値と実績値がかなり離れているがその理由はということでしたが、平成26年のKPI、数値目標が年間197,700件ということについては、目標設定が前年度の中で一番アクセス数が多かった月のアクセス数を元に年間の数値目標というのを設定している、一番多い月のアクセス数×12月ということで、年間197,700件という数値目標をあげておりましたが、実際、実績値がそこまで遠く及ばなかった、132,000件ということでございます。平成31年のKPIが237,200件ですが、これは26年の197,700件から2割増しということで、237,200件の数値目標をあげていたところでした。それに対して、実績値も228,000件には及ばなかったという結果になっております。以上でよろしいでしょうか。

○会長

平成26年のKPIが197,700件が実績見込みであげていたが、実際はもっと少ない件数だったということですか。

○総務課長

そうです。

○会長

ここにまとめられた結果はどうされるのでしょうか。

○総合戦略課長補佐

まとめた結果は、第2期総合戦略の方に反映させたいと考えておりますので、今後この報告という形になるかと思いますが、令和2年度の第2回目の会議の時に報告をさせていただいて、第2期の総合戦略の作成につなげていきたいというふうに思っております。

○委員

資料3の6次製品の開発の結果が5年間で76件とでております。新しい策定についてですけれども、6次製品の推進ということになっておりますが、計画策定にあたって6次製品の数を追うのか、それとも6次製品の作った後を追うのか、はっきり言います、76件の6次製品をつくっておられますが、実際に収支が合っているものは何件ありますか。

○商工観光課長

先ほどお話にあったとおり、6次製品の数が現在76品目生産されているところでございますが、実際、道の駅での販売、またふるさと納税でも一部取り扱いをしておりますが、実際、収支という点でいけば、まだ正確に検証はしておりません。なかなか家庭の中で加工場をつくりながら6次製品に取り組んでおられますが、現在のところ、それが正式にど

のくらい収益が上がっているのか、ここの分につきましては今後 6 次産品に取り組みられた皆様の方に検証等が必要ではないかなと思っております。実際は先ほど申しましたとおり、ほぼ道の駅での販売がメインではないかなと思っております。実際、その他に販路を開拓されて、他の市場に実際は販売もしていただきたいと思っておりますが、なかなかそこまで手が回らないという状況ではないかなと思っております、以上です。

○会長

次回までに少しでも調査した結果とかがでてくるでしょうか。

○商工観光課長

まず、道の駅に販売される方の分については、実数が分かると思いますので、道の駅に販売をされている方を中心に調査をしたいと思っております。

○会長

次回までに分かればご報告をしたいということでございます。

(3) 白石町人口ビジョンの改訂について

○白石創生推進係長

資料の方は資料 4 となります。白石町人口ビジョン令和 2 年 3 月改訂【簡易版】となっております。この資料は令和元年に策定した白石町人口ビジョンでございます。2 ページの方をみていただきますと、白石町人口ビジョンにおける年齢 3 区分別の推移となっております。棒グラフの青色が年少人口 0 歳から 14 歳、赤色が 15 歳から 64 歳、緑色が 65 歳以上となっております。この青色、赤色、緑色を合計したのが一番上に書いてあります数字で、緑色で囲ってあるのが実績値、青色で囲ってあるのが町の独自推計でございます。また赤色の折れ線グラフが社人研推計値となっております。社人研とは国立社会保障人口問題研究所という専門機関がありますが、そこが発表をしている推計値です。まず緑色で囲ってある実績値をみてください。国勢調査による人口となりますが、2010 年 25,607 人、2015 年 23,941 人。5 年間で差し引き 1,666 人と大きく減少しております。次に赤色の折れ線グラフ、社人研推計値をご覧ください。いまから 10 年後、2030 年で 18,941 人、40 年後 2060 年で 10,120 人となっております。これに対しまして青色で囲ったところが町の独自推計となります。合計特殊出生率を 2040 年までに 1.8、2060 年までに 2.0 になった場合の人口となります。10 年後の 2030 年で 18,999 人、40 年後の 2060 年で 11,137 人となっております。ちなみに 5 年前に策定をしました人口ビジョンでは、10 年後の 2030 年が社人研で 20,202 人、町の独自推計が 20,642 人。40 年後の 2060 年が社人研 12,899 人、町の独自推計 15,025 人となっております。そういったことから、今回改訂したビジョンは前回よりも人口がさらに減る予測となっております。3 ページから 12 ページにつきましては、合併前の旧町別や現在の小学校校区別の推計となっております。

次に 13 ページをご覧ください。年齢 3 区分別の割合となっております。一番左側 2010 年の高齢者 65 歳以上の割合が 29.6%、15 歳～64 歳までの生産年齢人口が 56.9%、0 歳～

14歳の年少人口が13.5%となっております。40年後の2060年では65歳以上45.2%、15歳～64歳44.8%、0歳～14歳10.0%となっております。14ページから23ページにつきましては同じように合併前の旧町単位であり小学校区別の表を添付をいたしております。後持ってご覧いただければと思います。一番最後のページになりますけれども、24ページの方をご覧ください。世帯数の推計となっております。棒グラフが世帯数、折れ線グラフが平均世帯人員数でございます。2015年までが実績値となっております。今年度2020年で世帯数が7,041世帯、平均世帯人員3.16人となっております。いまから40年後2060年では右から2番目となりますけれども、世帯数が5,131世帯、平均世帯人員2.17人と予測がなっております。2020年と比べますと、これが40年間で世帯数が1,910世帯の減少、世帯人員が0.99人減少する予測となっております。人口ビジョンにおきましても、今後の白石町では人口減少に伴いまして、空き家の増加、高齢者のみの世帯、一人世帯の増加、子どもの減少などが現在以上に進んでいることが予想される場所です。以上簡単ですけれども人口ビジョンの説明を終わります。

⇒質疑無し。

○会長

人口ビジョンにつきましては第2期総合戦略を策定するうえで重要なポイントとなると思いますので、ぜひ充分頭の中に入れておいていただきたいと思います。

(4) 第2期(令和2年度～令和6年度)総合戦略の策定に向けて

○白石創生推進係長

それでは第2期の白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けてということでご説明を致します。資料につきましては、資料5の34ページからとなります。第2期の総合戦略につきましては、基本的には第1期の総合戦略の効果・検証結果を踏まえて、踏襲していく形ということで考えております。活力ある地域社会の実現のために、人口減少を和らげる、あるいは人口減少に適応した地域をつくるために、こういった取り組みを総合戦略に掲げていくのか検討していくこととなります。第2期総合戦略の期間につきましては今年度、令和2年度から令和6年度までの5年間を予定しております。それでは34ページでございます。まず、第2期総合戦略の政策体系でございます。政策5原則としまして、自立性、将来性、地域性、統合性、結果重視、この5つを踏まえまして、政策を推進していくこととなります。左側書いてありますとおり、目指すべき将来としまして、将来にわたって活力ある地域社会の実現ということで、人口減少を和らげる、結婚・出産・子育ての希望をかなえる、魅力を育みひとが集う、地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、地域内経済循環を実現する、人口減少に適応した地域をつくる、そして東京圏への一極集中の是正を目指すとなっております。真ん中の青色ところは、基本目標としまして、4つ掲げてあります。この基本目標の4つに加えまして、今回から横断的な目標ということで2つ追加をなされています。4つの基本目標と2つの横断的な目標を掲げまして施策を推進していくこととなります。ここで横断的な目標②に書いてあります地方創生SDGSの実現など

の持続可能なまちづくり、地域における S o c i e t y 5.0 の推進につきまして聞きなれない言葉かと思しますので次のページ以降でご説明をいたします。

35～37 ページをご覧ください。SDGS は持続可能な開発目標ということで 37 ページに書いてありますとおり、2015 年の国連サミットで全会一致で採択されております。17 の目標のもとに 169 のターゲット、232 の指標が決められております。ここに書いてありますとおり、17 の目指すべきゴールというものが掲げてあります。これにつきましては経済発展を優先してきた結果、環境の破壊、貧富の拡大、異常気象などが生じてきたことを踏まえまして、これからの社会では、多様性、生態系の保護、資源の効率的な利用、技術革新などによって、持続可能な開発を目指していくこととなされております。

続きまして 38 ページです。38 ページにつきましては、S o c i e t y 5.0 について書いてあります。S o c i e t y 5.0 とは、ここに書いてありますが、サイバー空間・仮想空間とフィジカル空間・現実空間を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会と書いてあります。非常に分かりづらい感じになっておりますが、S o c i e t y 1.0 が狩猟社会、2.0 が農耕社会、3.0 が工業社会、4.0 が情報社会、そして 5.0 が新たな社会というふうにされております。

次の 39 ページにおいて、S o c i e t y 5.0 で実現する社会ということで、具体的にどういったものかということが図にして書いてあります。ここの図にありますとおり、人工知能なりロボットを活用した社会となっております。後持って詳細はご覧ください。

また 40 ページにおきましては、サイバー空間とフィジカル空間の高度な融合ということで図で示してありますので、ここも後持ってご覧ください。

41 ページと 42 ページにつきましては、経済発展と社会的課題の解決の両立ということで、41 ページにありますとおり、青色の部分の経済発展の方では、エネルギーの需要増加、食料の需要増加、また緑色の社会的課題の解決のところでは、温室効果ガス排出削減、食糧の増産やロスの削減などが書いてあります。下の方ですけれども、I O T、ロボット、人工知能、ビッグデータなどの先端技術を取り入れ、格差なく多様なニーズにきめ細かに対応したモノやサービスを提供することで両立をさせて行くということで掲げてあります。

一番下の 42 ページの方に図で示してありますが、図の左側ですけれども、例えば、予防検診・ロボット介護と健康寿命延伸・社会コストの抑制というものの両立、左下の農作業の自動化・最適な配送と食料の増産・ロスの削減の両立、こういったものが S o c i e t y 5.0 ということで書いてあります。こういったことを踏まえまして第 2 期の総合戦略を策定することとなります。まずもって本町における状況なり課題でございますが、大きく現在 4 つほどあるかと思いますが、まずは 1 つ目に学校の統合再編問題、2 つ目に災害への対応、3 つ目に地域における後継者不足・農業後継者不足・伝統文化の継承問題、4 つ目に空き家・空き地の増加などがあるかと思えます。こういった状況を考慮しまして、総合戦略におきまして本町で検討できる持続可能な取り組みを検討していきたいと考えております。

また、あわせまして、新型コロナウイルス感染症対応を踏まえまして新しい生活様式の

確立が求められております。テレワークなどによりまして、地方への移住や副業、ワークライフバランスの充実への関心の高まりにつきまして全国的に見られます。社会全体の意識変化によって大きな意識改革が生まれつつあり、地方創生の新しい原動力になる可能性を秘めております。このようなことを考慮しまして、委員の皆様から意見を出していただきまして、関係部署と調整して次回は素案を提示させていただきたいと考えております。以上説明を終わります。

○会長

具体的に今後のスケジュールはあと何回開催して、何月に策定という大体の目標は？

○総合戦略課長補佐

一応、今年度につきましては 3 回の会議の開催を予定させていただいております。本日が 1 回目、9 月が 2 回目、11 月が 3 回目。この 3 回目で第 2 期総合戦略の策定、決定ということであればいまのところ考えております。

○会長

策定に向けてはあと 2 回この推進会議を開催して策定したいということでございます。皆様方から全般的に結構ですので何かご質問・ご意見ございましたらよろしくお願い致します。

○委員

人口ビジョンの労働人口が半分以下でも持続可能なのですか。

○総合戦略課長補佐

生産年齢人口が半分以下になってもということでしょうか。ただ、この地区には住んでいらっしゃる方がいらっしゃいますので、そういった方達に対する行政としての責任を提供していくということで、労働力ということでは少なくなるのかもしれませんが、町としては持続していこうというふうに考えております。そういったことで福祉サービスの提供なり、そういったことは常に考えていかなければいけないと考えています。

○委員

全体的に仕事が機械化とかロボットを使うようになってきている中で、今後どんな仕事をしていけばいいか、新しい仕事を創出していかないとなかなか大変かなと思いますが、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○会長

この件に関しては、新型コロナウイルス感染症対策と相まって、自宅でできる仕事というものが大いに見直されるということが予想されます。それとさっきいわれた I O T 活用ですね。そういったことを考えたところでこの計画を策定していかなければならないということでは考えておりますけれども、具体的には次回の会議で提案できればということでは考えております。

○委員

モノ作りや農産物など有名なものが白石町にはいっぱいあるのですが、できれば今後、

公共機関で難しいことでなければ、販路の支援を民間と連携してできるような方法を考えていただければいいかなと思うのですが。例えば銀行や他の団体と協力して。ぜひ検討をよろしくお願いします。

○会長

いままでも銀行さんなどいろいろご支援をいただいて東京の方での商談会などをおこなっておりますが。商工観光課長からお願いします。

○商工観光課長

商工観光課の方では青果業者を含め、農産物の販路拡大ということで各種PRを行っております。そういった中、なかなかまだ実際の販路につながっていない部分が相当ございますので、今後もPR等を行いながら、首都圏を含めた販路拡大に努めたいと思っております。そういった中で、もちろんJAさんも含めて、金融機関等にもご協力をいただければと思っております。

○委員

できれば町の銀行についても販路拡大支援をしなければということで問題になっておりますのでご協力いただければと思います。

8. その他

第2回白石町まち・ひと・しごと創生推進会議のおしらせ

日時：令和2年9月ごろ

○総合戦略課長

今回の内容としましては、本日検証いただきました資料3 効果検証シートを踏まえて事務局の方で第2期の総合戦略のたたき台を素案として作成いたしましてご協議をいただきたいと考えております。その際にはさきほどお話しいただきました色々な案件についてもできればうたっていきたいというふうに考えております。他に皆様の方から何かございましたらよろしくお願い致します。

先ほどの検証シートを今日出せる方は後持って事務局の方に出していただければと思います。まだ中身を精査したいということであれば返信用封筒に入れて郵送していただければと思います。

9. 閉会

○総合戦略課長

本日は長時間に渡ってご協議いただきありがとうございました。これもちまして令和2年度第1回白石町まち・ひと・しごと創生推進会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。